

## 〔言語文化部会〕

# 第七学年 国語科学習指導案

日時 令和三年九月二十一日（火）

場所 白川村立白川郷学園(国語科教室)

学級 七年(男子三名・女子五名 計八名)

授業者 小林 雅士

### 一、単元名「筋道を立てて」

教材名 『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」（鈴木俊貴）

### 二、単元および教材について

説明的な文章については、これまでに「ダイコンは大きな根？」と「ちよつと立ち止まって」の学習において、説明的な文章の基本的な構成、序論・本論・結論の役割や関係について捉えてきた。そして、そうした構成法が、読者にとってのわかりやすさにつながっていることを学習した。この単元は、それに続く説明的な文章（記録文）を扱う単元である。

本教材は、仮説検証型の説明的な文章（記録文）で、筆者が立てた仮説を検証し、考察し、結論付ける展開になっている。その中では、図表が効果的に活用されていたり、表現が工夫されていたりすることによって、読者が分かりやすく、主張に納得しやすくなるようにになっている。また、この文章の構成や展開も、筆者の主張に説得力を与えている。そうした文章の構成や展開、表現の特徴を理解し、説得力のある文章の書き方を、今後の自分の表現に生かせるようにしたい。

そこで、本単元のねらいを、「筆者の意見と、それを支える根拠との関係を捉える学習活動を通して、説得力のある文章の構成や展開について考えることができる。」とし、単元の課題を「結論に説得力をもたせるために、筆者はどのような工夫をしているのだろう。」とした。

### 三、生徒の実態

昨年度実施した全国学力学習状況調査の質問紙調査から、目的に応じて表現を工夫したり、読んだ感想や考えを表現したりすることに苦手意識のある生徒がいることがわかった。

また、これまでの説明的な文章の学習では、言葉に着目して正確に読むことが苦手で、「なんとなく」と感覚的に読んだまま、明確な根拠を示しながら意見を言うことが難しい生徒もいるという実態が明らかになった。「どの言葉から(事実)」「なぜ(理由付け)」「どのように(意見)」考えたのかを示し、論理的に説明する力を育成していく必要があると考えている。

そうした実態を踏まえ、この単元では、表現の工夫や文章の構成・展開について考えていくことを通して、意見と根拠の関係を正確に理解させ、説得力のある説明文では、情報の結び付きや読者にとって分かりやすい表現の仕方がされていることを捉えさせたい。

さらに、自分の考えを積極的に表出できる生徒ばかりではないことから、思考ツールや学習支援ツール「ロイロノート」といったICTの活用、小集団による意見交流といった手立てを講じ、どの生徒も自分の考えを表出し、仲間と主体的・対話的で深い学びを得ることができるようになりたい。

### 四、「生きてはたらく言語能力」の育成について

#### 中学校学習指導要領解説

〔思考力・判断力・表現力等〕「C 読むこと」(中) 第一学年より

エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

本教材では、中学校学習指導要領第一学年「思考力・判断力・表現力等」の「C 読むこと」の「エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。」の項目を具現し、筆者の図表の活用の仕方や表現の工夫、論の展開の仕方とその効果を考えるという思考・判断・表現の学習活動を行う。その中で、読者にとって説得力のある文章とは、分かりやすく、事実と主張との結びつきが明確で、読者の思考に沿ったものであるということを理解させたい。

本時では、「接続する語句」や「文末表現」の工夫やその効果を考えさせる学習活動を通して次のような表現の効果について考えを深めさせたい。

- ・ 接続する語句が内容のつながりを明確にすることで分かりやすさにつながっていること
- ・ 文末表現を明確に変えることで、筆者の主張なのか、事実なのかを明確に書き分けていること

この単元では「思考力・判断力・表現力等」の項目に重点を置くが、その学習活動の中で、このように言葉の使い方やその効果に注目することで、言葉への自覚を高めることができ、生きてはたらく言語能力が育成されると考える。

## 五、研究に関わって

### 研究内容(1) 指導計画の工夫

#### ②生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発

この単元ではその出口に「真の村の担い手学習報告(レポート)」という言語活動を設定した。今年度、「村民学」の学習を通して、村内で活躍する「村の担い手」と言われる方々の考え方や生き方を調査し、一人一人が自分達なりに「真の担い手」の定義を考えてきている。そうして学んできたことをまとめ、村の人たちに発信しようとする活動である。そこで、単に活動してきたことを並べ立てるのではなく、自分が定義したことについて、説得力のある文章で表現させたい。教材文を読み深めることを通して、説得力のある文章の書き方を学び、それを生かして書くことで、学びを実感させたい。

### 研究内容(2) 指導・援助の工夫

#### ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

##### ■主体的な学び

この単元は、出口の言語活動が生徒にとって必然性のあるものであるため、この教材文を読み深めていく学習活動自体も、目的が明確で、生徒が主体的に取り組めるものである。

また、本時を含め、第四く七時では、仲間と考えを交流する場面に入る前に、一人一人がその交流の足掛かりになるよう、必ず自分の考えをもてるような指導・援助をする。本時でも課題を確認した後、考えをもつための視点を「接続する語句」と「文末表現」と具体的に示すことで、どの生徒も考えがもてるようにする。

さらに、ICTも活用する。どの生徒も自分の考えを発信する場があることで、自ら考えを具体的に表現しようという意欲をかきたてる。また、仲間と考えが共有できることで、なかなか考えがもてない生徒や、考えに自信がもてない生徒も、仲間の表出した考えを自分の考えづくりの手がかりにできる。

##### ■対話的な学び

本時では、少人数グループでの意見交流を行うことで、より対話的な学びを実現する。

思考ツールを活用して自分の考えをまとめた後、仲間と意見交流をして考えを比較し、共通点や相違点をもとに話し合うことで、対話的な学びを生み出す。

##### ■深い学び

本時では、より深い学びを得るために、次の三点を工夫する。

- ・ 「表現の工夫」の視点を「接続する語句」「文末表現」に絞り、その効果を具体的に考えさせる
- ・ 思考ツールの活用で、自分や仲間の考えを整理し、構造化させる
- ・ 深めの発問で、見つけた工夫の効果を実感させる

特に、表現の工夫を見つけて終わるのではなく、結論に説得力をもたせることにつながっていることを実感させ、その先に学んだことを活用しようとする意欲をもたせたい。

### 研究内容(3) 評価の工夫

#### 生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫

この単元では、一枚ポートフォリオ評価法（OPPA）を取り入れ、学習者の評価、指導の評価・改善を行う。これは、学習者が一枚の用紙に単元の学習前・中・後の学習履歴を記録し、その全体を学習者自身が自己評価する方法である。これによって、単元当初の自分の考えや、初発の感想と本時のまとめを見比べることで、生徒自身が自己の考えの変化や、学びを自覚できるようにする。また、生徒の学びの実態をつかむことで、次の授業や単元のその後の指導・援助の改善にもつなげる。

単位時間のまとめを書く際には、「①この時間に学んだ自分がこれから生かしたいこと」「②自分の学びを深めたもの（仲間の考えなど）」の二つについて書かせる。これによって、自分の学びを自覚するとともに、その高まりを次に生かそうとする意識を言語化させる。

そして単元終末には、自分が学んできたことを振り返り、学んだことをどこで、どう生かすかを具体的に意識しながら、出口の言語活動に取り組ませる。この単元の流れと評価の生かし方によって、生きてはたらく言語能力を育成したいと考えている。

# 六 単元構想図 7年生 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ (全10時間)

## 【第1学年【思考・判断・表現】C「読むこと」(1)エ】

文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような展開になっているのか、そのことがどのような効果につながっているのかなど、自分なりに意味付けすることができる。

## 【本単元で身に付けたい資質・能力の系統】

小高: 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つめたり、論の進め方について考えたりすること。  
1年: 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

## 【「読むこと」における生徒の実態】

自分の考えを積極的に話したり、小集団で考えを出し合うことに対して意欲的な生徒が多い。一方で、叙述に即して正確に読み取ることや、構成を考え、情報を整理して書くことに弱さが見られる。日常生活の中では、構成や表現に意識を払って読んだり書いたりすることが少ないからだと考える。  
そこで、本単元では説得力のある文章とはどのようなものか、生徒が実感を持ちながら、その構成や表現の工夫について理解できるようにしたい。その際、どの言葉からそう考えたのか、根拠を明らかにさせる。

## 【育成すべき資質・能力とのつながり】

説得力のある文章を書くには、まず説得力のある文章から、その秘訣を学ぶ必要がある。「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」の筆者は、仮説を立て、検証し、得られた事実を基に根拠を明らかにして自分の主張を述べている。また、図表や語句の表現も説得力を高める工夫である。仲間との対話を生かしながら、そうした工夫をみつけ、その効果を検討し、説得力のある文章を書くために必要なことを理解できたとき、白川郷学園の生徒に育成すべき資質・能力を育むことができたと思いたい。

## 【単元の言語活動】

結論に説得力をもたせる工夫とその効果を読み取り、それを生かして「真の村の担い手学習報告」を書く。

## 【本単元の評価規準】

### <知識・技能>

原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。

### <思考力・判断力・表現力>◎

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。

### <主体的に学習に取り組む態度>

言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。

## 【白川郷学園の生徒に育成すべき資質・能力】

### 「先を読む力」

既習内容や生活経験、様々な見方・考え方を駆使して、仲間との対話をしながら主体的に問題解決の方法を生み出していく力

## ■知識・技能を習得しながら活用する場

### 【ねらい】

図表に着目し、どんな図表がどんなことを表しているか、そして、どんなことについての説得力を高めているのかを考える。

### 【評価規準】

【**思・判・表C(工)**] 筆者が図表を効果的に活用していることで、結論に説得力をもたせていることを読み取っている。

### 【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】

図表に着目し、それが示していることや、それによる効果を他の表現と比較して考え、仲間と伝え合う姿。

【**ねらい**] 筆者の二つの検証部分の論の展開の仕方を三角ロジックに当てはめて分析する学習活動を通して、筆者が実験・観察で得た事実を根拠としていることに気づき、「事実」と「意見」をつなぐ「意見を支える根拠(理由付け)」説得力をもたせることを理解できる。

【**評価規準**] 【**思・判・表C(工)**] 筆者が実験・観察で得た事実を、二つの意見それぞれを支える根拠としていることで、結論に説得力をもたせていることを読み取っている。

【**ねらい**] 筆者の論の展開の仕方を分析する学習活動を通して、筆者が事実に基づいた検証を重ね、疑問点を解消しながら仮説を実証していくことで結論に説得力をもたせていることを理解できる。

【**評価規準**] 【**思・判・表C(工)**] 事実に基づいた検証を重ね、疑問点を解消しながら仮説を実証していくことで結論に説得力をもたせていることを読み取っている。

## ■つけたい力」を支える、基礎的な知識・技能を学んだり、取り出して確かめたりする

### 【ねらい】

『「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ』を通読し、「筆者の主張は何か」と「説明には説得力があるか・それはどこからか」という二つの視点から感想を書きまとめることができる。

【**評価規準**] 【**思・判・表C(ウ)**] 筆者の主張や事実と意見との関係などについて叙述を基に捉えることができる。

【**資質・能力に関わる本時の具体的な姿**] 筆者の主張と、結論に説得力をもたせるためにどんな内容を挙げているかを捉えて感想を書く姿。

## ■学ぶ目的と必然をもつ。

【**ねらい**] 自分なりに「真の村の担い手学習報告」を書いてみることを通して、結論に説得力をもたせるためには工夫が必要であることに気づき、考えをもつことができる。

【**評価規準**] 【**思・判・表(1)エ**] 結論に説得力をもたせるためにはどんなことが必要なのか、既習の内容をふまえて考えもつことができる。

【**資質・能力に関わる本時の具体的な姿**] 結論に説得力をもたせるために必要ことは何かを考える姿。

## 【単元を貫く課題】

結論に説得力をもたせるために、筆者はどのような工夫をしているのだろう。

## 【育成すべき資質・能力に関わる本単元の具体的な姿】

学んだことを駆使し、仲間と対話しながら、叙述や構成に着目して読み、説得力のある文章の構成や工夫とその効果を読み取る姿。

## 第7時(本時)

【**ねらい**] 筆者の説明の仕方を「表現の工夫」に注目して読み取る学習活動を通して、筆者が接続する語句で内容のつながり明らかにしたり、文末表現で事実と意見を書き分けたりしていることに気づき、そうしたことが結論に説得力をもたせることを理解できる。

【**評価規準**] 【**思・判・表C(工)**] 筆者が接続する語句や文末表現を工夫することで、結論に説得力をもたせていることを読み取っている。

【**資質・能力に関わる本時の具体的な姿**] 筆者の叙述に着目し、説得力を高める表現がされているところや、それによる効果を他の表現と比較して考え、仲間と伝え合う姿。

## 第8～10時

## ■学んだことを、日常生活・社会生活へと結び付ける。

### 【ねらい】

・学習してきた、説得力を高めるための工夫を生かして、「真の村の担い手学習報告」を書くことができる。  
・レポートを読み合い、説得力があったレポートと、どんな書き方の工夫が説得力を高めていたかを交流し合うことで、説得力のある文章に必要な工夫を理解し、今後の書く活動に生かそうとする意欲をもつことができる。

【**評価規準**] 【**思・判・表-B(1)ウ**] 根拠を明確にししながら事実と自分の意見を結び付けたり、表現を工夫したりしながら書き表すことができる。

【**資質・能力に関わる本時の具体的な姿**] 事実と意見を明確に結び付けながら、表現を工夫して説明的な文章を書き表す姿。

## 【単元末の子どもの意識】

説得力のある文章には、図表を効果的に活用したり、論の展開や、叙述を工夫したりしていることが分かった。そして、自分が書く時にも、内容のつながりや叙述の仕方を工夫して、説得力のある文章を書けた。これからも説明的な文章を読むときには、説得力のある文章がどうか、これらの視点をもちながら読み深めたり書いたりしていきたい。

## 【導入時における子どもの意識】

説明的な文章の筆者は、序論・本論・結論の三段構成や、図表を活用したりして、読者に分かりやすくなるように工夫している。「言葉をもつ鳥、シジュウカラ」の説明に説得力があるのは、筆者のどんな工夫があるからなのかを理解して、自分も説得力のある説明文を書きたい。

## 七、本時のねらい

筆者の説明の仕方を「表現の工夫」に注目して読み取る学習活動を通して、筆者が接続する語句で内容のつながりを明らかにしたり、文末表現で事実と意見を書き分けたりしていることに気づき、そうしたことが結論に説得力をもたせることを理解できる。

## 八、本時の展開(七/十)

教師の働きかけ	学習活動	研究内容に関わって
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が結論に説得力をもたせるためにどんな工夫をしているのかを考え、図表と、論の展開の仕方の方の工夫を読み取ってきた。今回は「表現の仕方」に注目するんだしたね。</li> <li>・「表現の工夫」の中でも、「接続する語句」「文末表現」に注目して、それぞれがどんな効果を生み出しているのかを考えよう。</li> <li>・この「接続する語句」は何を分かりやすくしているのでしょうか。</li> <li>・なぜ筆者はこの文末表現を使っているのでしょうか。</li> <li>・「…かもしれないです」を変えたらどうなりますか。</li> <li>・グループ内で意見が分かれたところはどこですか。</li> <li>・「分かりやすい」という効果を挙げた意見がたくさんありました。それが「結論に説得力をもたせる」ことにつながるのでしょうか。</li> <li>・今回学んだことで、これから書くことに生かしたいことと、なぜ生かしたいかを具体的に書きましょう。また、今日の学びをうみだしたもののや、仲間の考えを書きましよう。</li> </ul>	<p>◇本時の学習の見直しをもつ。</p> <p>「表現の工夫」に着目して、説得力を高める工夫を読みとる。</p> <p>◇課題設定</p> <p>説得力を高める「表現の工夫」とはどのようなものだろうか？</p> <p>◇自分の考えをもつ。</p> <p>「接続する語句」「文末表現」の二点で叙述を分析し、「どの言葉(どんな工夫)」が「何を分かりやすくしているか」、「何に対する説得力を高めているのか」を考える。</p> <p>《接続する語句》</p> <p>「まず」「そして」「検証の手順を示す」「いっぽう」「また」他の条件の時との比較を示す          「そこで今度は」「二つ目の検証について」「例えば」例示してイメージをわかせる          「まず」「そして」「そのうえで」「検証実験の手順を示す」          「では、…でしょうか」問いかけて考えさせる          「つまり、…と解釈できます」言い換えてまとめる          「ここから、…と結論付けられます」言い換えてまとめる          「という仮説を立てました」仮説であることを示す          「定義することとします」前提として示している          「そこで私は、…でみることにしました。」前のことを踏まえた考え          「もし…かもしれないと考えたのです」予想を示す          「もし…かもしれないと考へたのですね」予想を示す          「しかし…でしょうか」立ち止まって考えさせる投げかけ          「しかし、今回の研究で…が分かりました」この研究の成果を示す          「…と考えられます」予想・意見を示す          「わかってきました」「かもしれない」「だと思えます」予想・意見</p> <p>◇グループ交流(共通点や相違点を話し合う)・全体交流</p> <p>「表現の工夫」がどう説得力をもたせることにつながる？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこが事実で、どこが意見・予想かを明らかに示すことで、論の展開が分かりやすくなり、より説得力を高めている</li> <li>・順序や読者の考えの流れに沿っていて分かりやすいからこそ、説得力が高まっている</li> </ul> <p>◇学習のまとめをする。</p> <p>① 私の説明でも、接続する語句を効果的に使ったり、自分の意見であることがはっきりわかるような文末表現をしたりしたい。特に筆者のように、事実か考察かがわかるように、文末をきちんと書き分け、自分の意見をはっきり示したい。</p> <p>② 私は初め、接続する語句が内容のつながりを分かりやすくするだけだと考えていたが、Aさんの、分かりやすいからこそ納得できるという考えを聞いて、そのことが説得力をもたせることにつながるのだとよく分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究内容(2)</li> <li>・初発の感想で明らかにした、「読み深めていきたい説明の工夫」から、本時の学習の見直しをもたせる。</li> <li>・「接続する語句」「文末表現」に視点を焦点化する。</li> <li>・「文末表現」の工夫が見つけられない生徒に對して、「筆者の考えか、事実かがわかる」ところはどこ」とアドバイスし、文末を書き分けていることに気付かせる。</li> <li>・学習者用のデジタル教科書を使用して考えをまとめたり、仲間に示して対話したりしながら思考を深める。</li> <li>●研究内容(3)</li> <li>OPPシートに、これまでの学習を踏まえて本時のまとめを書かせることで、学びを実感させる。</li> <li>●研究内容(1)</li> <li>「単元末に行う「真の村の担い手を定義する(村民学ふるさと学習のまとめ)」という活動を意識して書きまとめさせる。</li> </ul> <p>《評価規準》</p> <p>【思・判・表 C(1)E】          筆者が接続する語句や文末表現を工夫することで、結論に説得力をもたせていることを理解している。(発言、ワークシート)</p>